

<全体分析>

試験時間

120分

解答形式

記述式とマーク式の併用。

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

・英文の量が昨年度と比べ大幅に増加した。また、全体としての難易度は昨年度と比べやや上がった。

出題の特徴や昨年との変更点

- ・ 2(B)で、和文英訳に加え、空所補充 (2箇所) が出題された。
- ・ 4(A)の分量が昨年度と比べ大幅に増加した (昨年度の 462 語から今年度は 659 語となり、200 語近く増えた)。
- ・ 5の英文の素材が小説になった。記述問題で昨年出題された語補充の問題がなくなった。

その他トピックス

英語

東京大学 (前期) 2/3

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1(A)	読解総合	「フロイトの著作の影響力」 (356 words)	英文の内容を 70～80 字で要約する問題。今年度は答案の書き出しが与えられていた。特に第2段落は論の流れが把握しづらく、字数の制約も相まって答案をまとめるのに苦労する。 《出典》 Adam Phillips, “Introduction,” <i>The Penguin Freud Reader</i>	やや難
1(B)	読解総合	「人間の認知特性とアナロジー」 (871 words (本文 747 words + 空所 11 words + 選択肢 113 words))	2025 年度同様、文補充問題 (ア) と語句整序問題 (イ) が出題された。昨年度と同じく (ア) は 5 箇所だが、ダミー選択肢は 2 つ。(イ) の語数は 11 語 (並べ替える要素の数は 7)。全体の語数は減ったが、空所の中には確定させづらい箇所があった。 《出典》 Keith J. Holyoak, <i>The Human Edge</i>	標準
2(A)	英作文	意見論述	What does it mean to be strong? という問いに対する答えを 60～80 語の英語で書くことが求められた。近年はテーマが日本語で与えられていたが、今年度は英語で与えられた。	標準
2(B)	英作文	和文英訳 + 空所補充	昨年度は 3 つの段落から成る文章中の 1 文 (101 字) の英訳が求められたが、今年度は 1 つの段落から成る英文が与えられ、その中の日本語で示された部分 (100 字) の内容を英語で表現する問題と、英文中の 2 つの空所に入る単語の組み合わせとして最も適切なものを選択する問題 (選択肢は 6 つ) が出題された。前者の問題では、英語の表現に工夫しないとイケない箇所もあったが、とりたてて難しいものではなかった。 《出典》 Joseph Addison, “The pleasure of the imagination,” <i>Spectator</i> 412 (Monday, 23 June 1712)	標準
3(A)	聞き取り	「ドイツの教育制度」 (528 words)	テーマについての講義を素材とした問題。全 5 問中、「講義の内容と一致する選択肢を選ぶ」問題が 3 問出題された。大問 3 全体にわたって、昨年度に比べて選択肢の分量が増えたが、問いの難易度は例年通りで標準的。 《出典》 Karen Lillie, “Egalitarian or elite? The case of the German education system”	標準
3(B)	聞き取り	「イギリスの刑務所に関する話」 (513 words)	刑務所の設計および建設計画の専門家をゲストに迎えたポッドキャストの一部を素材とした問題。全 5 問中、「講義の内容と一致する選択肢を選ぶ」問題が 1 問出題された。 《出典》 Adapted from Yvonne Jewkes, “Architecture and Hope,” <i>BBC Podcast, Thinking Allowed</i> (October 1, 2024)	標準

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
3(C)	聞き取り	「樹皮や岩石に着生する地衣類」 (538 words)	テーマについての講義を素材とした問題。全5問中、「講義の内容と一致する選択肢を選ぶ」問題が2問、「講義の主旨」を選ぶ問題が1問出題された。一方で、昨年度出題された「言及されていない選択肢を選ぶ」問題と「講義の内容と一致しない選択肢を選ぶ」問題は、いずれも出題されなかった。 《出典》Merlin Sheldrake, <i>Entangled Life: How Fungi Make Our Worlds, Change Our Minds and Shape Our Futures</i>	標準
4(A)	文法・語法	正誤判定 「20世紀初頭のイギリス人が記述した、日本の能の特徴」 (659 words)	2019年度から正誤判定問題の出題が続いている。(23)(26)では「文脈上の誤り」に気づく必要があった。それ以外の段落に含まれている「文法上の誤り」は、標準的な文法・語法の事項にかかわるものだが、分量の増加により対処がややしづらくなっている。 《出典》Marie C. Stopes, <i>Plays of Old Japan: The Nō</i>	標準
4(B)	英文解釈	下線部和訳 「抵抗の一形態としての休息」 (335 words)	下線部は3つ。下線部の総語数が増加した。また、(イ)はunweavingの内容を補って訳すことが求められたが、どのようにまとめるかに苦労する。 《出典》Tricia Hersey, <i>Rest Is Resistance</i>	やや難
5	読解総合	「妻が亡くなった雇い手の家で家政婦が見つけたしみ」 (1,003 words)	エッセーからの出題が続いていたが、短編小説が素材になった。マーク式の設問でよく出題される内容(不)一致問題がなくなり、題材となった小説で用いられている描写の仕方を問う問題が出された。記述式の設問は、説明問題が2問、和訳問題が1問だった。記述式設問(A)は、解答に必要な情報を文脈全体から読み取るのに苦労する。 《出典》Amy Hempel, “When It’s Human Instead of When It’s Dog”	やや難

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- 近年、東大の出題形式はほぼ変化がないので、これまでに出題された問題に取り組み、東大で出題される形式に対応できるようにしておく必要がある。東大英語の攻略には全般的に以下のような対策をとっておかなければならない。
- 読解に関しては、主に「文脈把握力」が要求されている。スピーディーに英文を読み、必要な情報を把握したり、内容をまとめたりする演習が有効である。また、日本語表現能力を高めることも怠ってはならない。
- 作文に関しては、基本的な知識の正確な運用が求められている。与えられたテーマについて自分の考えなどを正しく表現できるようにしておこう。また、日本語を正確に英訳する演習も積んでおこう。できれば、添削指導を受けるとよい。
- リスニングに関しては、書き取りの練習なども取り入れ、基本的な聞き取り能力を養うことに加え、過去問演習を通して情報を整理しながら話の展開をつかむ力を養うようにしよう。
- 最近、英文の語彙レベルが上がっているので、語彙の拡充にも努めるようにしよう。